

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872200407		
法人名	有限会社 エスエス住建		
事業所名	グループホーム くぬぎの森		
所在地 (電話番号)	茨城県鹿嶋市和825-2 (電話) 0299-90-9900		
評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年5月22日	評価確定日	平成19年11月26日

## 【情報提供票より】(平成19年5月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11人, 非常勤 6人, 常勤換算	12.22人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1階 建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間3年)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

### (4) 利用者の概要(5月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大野診療所 ・ 鹿島病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの由来にもなっているくぬぎの木に囲まれた環境に当ホームはある。木造建築の建物の中は日差しが射し込んで、明るく、温かみを感じる居住空間になっている。敷地内の広い中庭には外気浴をしたくなるようなゆったりとくつろげるウッドデッキがある。また、菜園もあり、野菜等を栽培し日常的に季節を感じて生活することができる。職員は入居者の方たちに笑顔絶やさぬケアで家族のように接し、寄り添いながら支援しており入居者の笑顔があふれている。中高生の職場体験やボランティアの受け入れも積極的に行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で挙げられた議事録は具体的に内容を記録する形になっている。アセスメントに関しては入居者の生活歴が十分に把握され、職員全体で情報を共有して個別的な介護計画となるよう工夫されている。また、地域活動に参加することで、近隣住民との交流が深まってきている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>日ごろの介護の見直しの時期と考えて、会議を開き全職員で自己評価に取り組んだ。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回の会議では、事業所の活動内容の報告が主な協議内容であり、次回からは運営推進会議の充実を図るため避難訓練について協力を呼びかける内容を検討している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者家族には月に一度、近況報告を交えた便りを送付し入居者の様子を伝えている。職員は入居者や家族の意見、苦情を伝えやすいような体制作りをしており、苦情は今迄一件もない。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の社協の一員となり、地域の高齢者全体を支える活動に積極的に参加している。ホームの菜園で収穫された野菜を近隣の方に販売・おすそわけしたり、近隣住民が野菜を持ってきてくれたり等の身近な交流もある。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔でいきいきと終の住みかとしてホームで生活していけるようにとの考えから、理念を作り上げている。それをもとに地域との関わりも持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家族のような関係を築き、笑顔で過ごすためにどのようなケアをしたらよいかを管理者は職員と話し合いながら日々のケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、民生委員とともに地域社協の委員となり地域高齢者を支える活動をしている。近隣の方が野菜を持って来てくれたりと身近な交流も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時に全員の意見をまとめ、自己評価の作成を行っている。前回、改善点としてあげられたアセスメントや議事録の内容について話し合い改善を行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ会議を活かした積極的取り組みは行えていない。まず、ホームの取り組み内容の報告を行い、次回からは議題を決めての話し合いを行う計画を立てており、避難訓練について協力を呼びかける内容を検討している。		市からの参加が得られるように働きかけを続けていくことが望まれる。

茨城県 グループホームくぬぎの森

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市から認知症についての教育の場として地域の方の受け入れ要請がある。中・高校生の職場体験の受け入れにも取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求時に写真や文章にて、日々の様子を伝えている。金銭管理も詳細に毎月領収書添付のうえ書面にて報告している。また、急変時の連絡も行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族訪問時に声かけし、気軽に話ができるよう環境を整えている。常に家族の意見を聴く体制ができていてことで苦情としての事例が出ないよう取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットごとに職員が固定勤務となっているので信頼関係が構築されている。施設内の職員の移動は行わず、また、2年以上離職者もいない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護力アップのため、多くの外部研修を段階に応じ受講している。受講後に報告書を作成しミーティング時には研修内容を他職員に報告指導している。新人職員には慣れた職員が指導していく体制がとられている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国グループホーム協議会・県グループホーム協議会に入会し同業者との交流や情報交換を行っている。近くのグループホームとの連携により入居者の紹介なども行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に必ずホームを見学していただいている。それが不可能な場合は、職員が自宅に訪問している。入居後も一人で過ごす時間を短くするよう支援し、寂しさなど感じさせないようケアしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護している、されているという考えは持っていない。植物の名前、畑仕事のこつ、料理の味付け等教えていただくことがたくさんある。入居者から元気をもらえるような関係作りができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく表情や様子からも本人の意向を把握するよう努力している。管理者は、バリデーション技術の取得に力を入れており、日ごろから職員にもコミュニケーション技術の重要性について話している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の本人・家族の要望を確認し、アセスメントを行いカンファレンスの中で職員全体の意見をあわせ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行い、また、入居者の身体的精神的状況の変化が見られた場合にも話し合いを行い、介護計画を作成している。		個人記録を介護計画に沿った記入方法にすることで、見直しの際に、より活用できるものとなることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同施設内のデイサービスに通いながら入所へつなげたり、若年性アルツハイマーの方の相談などを受けている。		今後も、現在の支援方法を活かした取り組みを継続していくことに期待する。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療の専門医がかかりつけ医となっており、看護師も24時間対応可能な体制をとっている。入院が必要な時には大きな病院との連携がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで看取りの事例がある。入居時、本人・家族にターミナル期までの受け入れを行っている施設であることの説明を行い、重度化した場合にどのように対応するかを書面でもらっている。さらに、状況に応じて何度も見直しができるようになっている。		本人・家族をはじめ、職員・医療チーム全体の支援体制の確認を随時とり、連携を密に図ることで安心したケアが受けられる体制作りが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時や誘導の声かけには、本人を傷つけてしまわないよう十分な配慮をしている。また、個人情報の管理は徹底しており、職員もそれを守っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけをまめに行い、また、何をしたいのか感じとることでその人のペースを尊重したケアの実践が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でできたものを収穫し、調理して食したり、職員と楽しみながら食事をする姿がみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度の方でも個浴で対応できる支援をしている。	○	職員側で時間を決めていく場合でも本人の意向を取り入れていくことで、より本人のペースに合った入浴支援ができることを期待する。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握することで趣味や性格などを考慮した役割作りが行われている。また、役割が楽しみになるようにケア内容に取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行われている。車椅子の方への対応も合わせて、お花見や竹の子とりなど季節ごとの外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は、車の往来が激しい道路のため安全を考慮し、鍵をかけているが、好きな時に外に出られる体制作りができています。		さらに近所との連携や協力を充実させることで、安全な外出支援ができるよう検討が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携をとっての訓練が行われており、入居者も参加している。非常食等の備蓄も用意されており、今後は被災した地域の方も受け入れられる体制を整える準備をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者ひとり一人の必要なカロリーを体重から把握し水分量を測定している。糖尿病の方への支援も工夫して行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなど入居者の共用空間は採光や風通しを考慮している。敷地内にはベンチやウッドデッキがあり、交流の図れる場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が長年使ってきた馴染みの家具が揃えられている。家族の話を聴いたりして入居者の大切にしてきたものが持ち込まれており、居室内の配置も使いやすいよう配慮されている。		